

第二次研究中期計画

研究の主題 「経営」「能力開発」

H23.6.2

	年度	研究テーマ	成果・結論等
第1期	16	力量形成と研修のあり方 経営の視点と評価	<p>①現状における学校は、教育支援部門が非常に脆弱であり、そのことが学校力向上を妨げる一因となっている。今後の学校力の向上は教育支援部門を強化することが最も有効である。</p> <p>②教育支援部門の強化には、長年その中で奮闘してきた事務職員が今後の強化の中心になることが最も効果的である。しかし学校事務職員は今後急速な世代交代を迎えようとしているものであり、能力開発が急務である。</p> <p>③能力開発の鍵を担うのは経験年数に応じた体系的な研修である。特に資質育成期における研修は、キャリアデザインの上でも重要であり、私たち自身も体系的な研修を通して、自己の職務に必要な能力を確保することを望むものである。</p> <p>④標準的職務が通知されたにも関わらず、事務職員に「どこまでやってもらえるのか」または「事務職員がどこまでやってよいのか」が不明である。</p> <p>⑤一般行政についてもアウトソーシング化は進んでいる。学校事務に関しても例外ではない。ルーチンワークだけではなく、企画・提案型への転換が必要であり、学校事務職員からの「こんなこともできます」といったアピールが必要である。</p>
	17	力量形成に関する意識	
	18	力量形成のあり方	
	19	学校の経営力向上に資する事務職員のあり方	
第2期	20	新しい時代の “学校”事務職員像	<p>学校事務職員像 学校に根付き、学校力の向上に資する学校事務職員 3つのポイント</p> <p>①ライフステージに応じた力量を身につけ、ライフステージに応じた役割を果たす</p> <p>②教育支援部門(ヒト・モノ・カネ・情報)を総括し、学校経営の一翼を担う</p> <p>③校内外の連絡調整を図り、学校事務職員相互の連携で教育支援部門を充実させる</p>
	21		
	22		
第3期	23	財務	<p>事務職員の働きを「経営」へと更に結び付けていくことで、「学校事務職員像」の具現化を図ります。その視点として「財務」「地域」「情報」を取り上げます。この3つは、「自主・自律した学校」「地域に信頼される学校」等、現在進んでいる教育改革の重要な要素であり、学校の弱みともなりやすい部分です。経験の浅い事務職員も増えてきていることから、これらの3つのテーマについて、「力量形成」も併せて考えて、丁寧に研究し、参加者が自分のこととして身近に感じられる研究推進を行います。</p>
	24	地域	
	25	情報	